

教育研究業績書

2018年11月21日

所属：応用音楽学科

資格：教授

氏名：一ノ瀬 智子

研究分野	研究内容のキーワード
音楽療法	音楽療法、高齢者、ICTの活用、音楽療法士の養成教育
学位	最終学歴
博士（教育情報学）、修士（学術）、Master of Arts,	東北大学大学院教育情報学教育部博士後期課程

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 音楽療法実習Ⅰ～ⅣにおけるClassroomの活用	2017年2月～現在	「音楽療法実習Ⅰ～Ⅳ」の課題提示および提出にClassroomを活用することにより、共同担当者との連携を密にして学生の状況を把握し実習指導を行っている。
2. 音楽療法実習先として栄養科学研究所を導入	2013年4月～現在	「音楽療法実習Ⅱ」および「音楽療法実習Ⅳ」の実習先に栄養科学研究所を取り入れることにより、学生にとって往復の負担が少なく、かつ専門性が高く安全な実習機会を提供した。
3. 音楽療法実習先として音楽療法研究室を導入	2012年9月～現在	音楽療法研究室を「音楽療法実習Ⅱ」の実習先とすることにより、発達障害児への個人音楽療法を見学できる貴重な学習機会を提供した。
4. 音楽療法実習における定期的な学内指導	2010年4月～現在	実習期間内に年間4回の事例報告会を行い、記録の書き方や実践の評価など、振り返りと指導の時間を設けることにより、学習内容の深化と定着を促した。
5. 「応用英語A・B」における視聴覚教材の活用	2009年4月～2010年1月	英語論文購読の際に、論文内容と関連のあるアメリカの教育用テレビプログラムをの映像を活用して音楽や動きの分析をさせることによって論文内容の理解が促進され、学生にとっては難解なレベルの文献の購読を達成することができた。
6. 実習指導および講義科目におけるμ-camの活用	2009年4月～2017年3月	「施設実習Ⅰ・Ⅱ」、「音楽療法実習Ⅰ～Ⅳ」の課題提示および提出にμ-camを活用することにより、共同担当者との連携を密にして学生の状況を把握し実習指導を行った。また、「音楽療法論Ⅰ・Ⅱ」、「応用英語A・B」においては講義資料および補足用教材を提供することにより、学生の授業外での学習への取り組みを促進した。
7. 「音楽療法実習Ⅰ」の実施における卒業生や現役音楽療法士との交流の促進	2009年2月～現在	応用音楽学科のカリキュラムにおいて新たに設けられた「音楽療法実習Ⅰ」における見学参加実習先として、本学卒業生が音楽療法士として勤務する施設を選択した。また、第一線で活躍する音楽療法士を招いて学内ガイダンスを実施し、音楽療法実習への導入と併せて、音楽療法士の職業理解と動機の高揚を図った。その結果として、学生の実習への積極的な参加が促された。
2 作成した教科書、教材		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 一般社団法人兵庫県音楽療法士会事例研究会 講師およびスーパーバイザー	2016年9月25日	研究会前半では「日々の実践の根拠となる知識：高齢者の音楽療法について」をテーマとして講演し、後半には音楽療法士3名による事例発表においてスーパーバイザーを務めた。
2. 日本音楽療法学会ラーニングサポートセンター（LSC）第1回近畿支部講習会講師	2015年10月25日	若手の音楽療法士による事例検討会においてファシリテーターを務めた。
3. 一般社団法人兵庫県音楽療法士事例研究会 講師およびスーパーバイザー	2014年6月29日	研究会前半では、「音楽療法におけるテクノロジー活用」をテーマとして講演し、後半には音楽療法士3名による事例発表においてスーパーバイザーを務めた。
4. 西宮市大学交流センター共通単位講座 講師	2005年9月～2006年1月	「音楽療法：様々な対象者と方法」と題して、西宮市の大学生を対象として全12回の講義を担当。
5. 大阪音楽療法協会主催 講習会講師	2005年8月6日～7日	「ミネソタ大学音楽療法専攻とインターンの内容、及び事例研究報告を受けての音楽療法実践」と題して、講習会講師を務めた。
4 その他		
1. 世界音楽療法学会への在学学生および卒業生の参加指導	2017年7月	第15回世界音楽療法学会への在学学生の参加を促し、10名の学生が参加した。また参加後には学会にて得られた成果をまとめて発表する機会を竹原助教と協働で授業内に設けることにより、学習内容の深化を促した。また、音楽療法専修の卒業生に世界大会での発表を奨励し、準備から発表までの指導を行った。
2. 英語の個人指導	2015年9月～12月	英語が不得手なゼミ生に対して、個別に定期的に英語指導を行った。
3. 大学院受験のための指導	2015年4月2017年8月	大学院受験のための英語、ならびに志望書作成等の指導を行った。
4. 音楽学部主催のシンガポール研修旅行	2015年3月	欧米式の音楽療法を導入しているシンガポールにおける

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
5. シンガポールの聴覚障害児によるコンサートと文化交流における音楽療法専修学生の参画の促進	2014年3月	音楽療法研修旅行の計画、事前指導、および引率を担当。 シンガポールの聴覚障害児を本学部へ迎え、丹嶺学苑研修センターを基点とする日本滞在とコンサート、講演会、ならびに文化交流の企画と運営を担当した。音楽療法専修学生が参画することにより、音楽療法の学習と国際交流における教育機会となった。
6. 卒後教育を目的とした勉強会の開催	2010年5月～現在	音楽療法コースおよび応用音楽学科の卒業生を対象として、事例の検討や卒業生同士の情報交換、音楽療法技法の研鑽など、卒後教育を目的とした勉強会を、定期的に開催した。
7. 本学部音楽療法コース卒業生を対象とした認定音楽療法士資格申請のための事例レポート作成指導	2009年9月20日～現在	2009年には音楽療法士（補）を取得して卒業した後、日本音楽療法学会によって定められた臨床経験の基準を満たした卒業生が資格審査を受けるにあたり、事例レポートの提出が求められる。そのレポートの作成指導講座を卒業生有志が企画し、益子務名誉教授、松本佳久子准教授と共同で指導した。その後も、同様の指導を個々の卒業生の必要に応じて継続して行っている。
8. 本学部音楽療法コースおよび応用音楽学科卒業生を対象とした認定音楽療法士資格審査のための、実技および面接指導	2009年9月～現在	本学学生ならびに卒業生を対象に、認定音楽療法士の資格審査2次試験の対策として、実技試験および面接に向けた指導を益子名誉教授・松本佳久子准教授と共同で行った。
9. 音楽学部主催のヨーロッパ研修旅行	2008年3月～現在	2008～2010年は演奏および音楽療法、それぞれを専攻する学生に有意義なドイツ研修旅行、2012年には応用音楽学科学生のドイツ・ベルギー研修旅行の計画、事前指導および引率を担当。
10. 米国ボールドステイト大学との短期交換留学	2006年4月～現在	米国ボールドステイト大学への演奏専攻学生派遣の事前準備指導、ボールドステイト大学からの派遣学生の受け入れ準備や滞在中スケジュール作成、滞在中の全般的なサポートを行っている。
11. 武庫川女子大学吹奏楽部 部長	2005年4月～現在	運営全般の指導を担当。
12. 担任業務	2005年4月～現在	平成17年度入学生（器楽学科）、平成24年入学生（応用音楽学科）のクラス担任をそれぞれ4年間担当した。現在は、平成28年度入学生（応用音楽学科）を担当中。
13. 附属高校生への入学前指導	～2017年2月	毎年、附属高校からの入学予定者への入学前教育の一貫として、ピアノ指導を担当。
14. 夏期講座	～2017年8月	毎年、音楽学部の夏期講座にて、ピアノレッスンを担当。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 認定音楽療法士 (Board Certified Music Therapist)	2004年03月19日	アメリカ合衆国の音楽療法認定評議会による資格。2004年3月に認定された後、2009年、2014年の資格更新を経て現在に至る。（認定番号 07133）
2. 日本音楽療法学会認定音楽療法士	2000年03月31日	2000年に日本音楽療法学会による認定音楽療法士を取得後、2005年、2010年、2015年の資格更新審査を経て現在に至る。（第252号）
3. 中学校・高等学校教諭1種（音楽）	1993年03月31日	（平四中一第一五五六号） （平四高一第一七二五号）
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 尼崎市立花公民館講座「立花市民大学」講師	2015年6月12日	「音楽と健康：音楽が持つ様々なチカラ」をテーマとして市民大学講座受講生を対象として講演を行った。
2. (公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構 兵庫県こころのケアセンター 兵庫県音楽療法士審査委員	2013年4月～現在	兵庫県音楽療法士を目指す受講生に対して、実習報告書および実習の立ち合い指導を行っている。
3. 音楽学部主催の音楽療法講演会	2011年3月～現在	音楽療法の領域における著名な講師を迎えて、松本佳久子准教授らと共同で、音楽療法講演会の計画、実施を担当している。2014年にはアジアを代表するシンガポールの音楽療法士Patsy Tan 博士、2015年にはヨーロッパの音楽療法の草分け的存在であるベルギーのJos De Backer 博士を迎えるなど、国際的な学術的交流も行っている。
4. 「音楽の科学研究会」の主催	2009年3月～2017年6月	武庫川女子大学を会場として、第11回（2009年）、第15回（2010年）、第18回（2011年）、第20回（2012年）、第24回（2013年）、第26回（2014年）、第28回（2015年）、第29回（2017年）音楽の科学研究会を主催し、司会を担当。本学音楽療法コースおよび応用音楽学科学生や卒業生と、他大学や企業の研究者との学術的交流の場を提供した。
5. 西宮市社会福祉協議会鳴尾支部福祉協力員大会 講師	2009年2月27日	「楽しい音楽の話：音楽のもつ力」をテーマとして音楽療法専攻学生有志による音楽活動と併せて講演を行った。

職務上の実績に関する事項				
事項	年月日	概要		
3 実務の経験を有する者についての特記事項				
6. 西宮市生涯学習大学宮水学園 講師	2008年9月4日・2010年2月4日	宮水学園「すこやかコース」講師。2009年度は「楽しい音楽の話：音楽のもつ力」、2008年度は「音楽と健康：音楽療法」と題して講義を行った。		
7. (財)ひょうご震災記念21世紀研究機構学術交流センター主催ひょうご講座2008 講師	2008年9月12日	音楽学部による共担の講座において、音楽療法に関連する講義を担当。		
8. 大阪大学大学院医学研究科との共同研究	2008年4月～2012年3月	予防環境医学専攻運動制御学講座、木下博教授の研究室との共同研究により、fMRIを用いた脳研究や音高弁別能力に関する研究を、音楽療法コース学生の卒業研究として行っている。 平成20年度 深見のどか「歌唱を伴った表打ちと裏打ちの脳機能について：fMRIを用いて」 篠永綾香「フルートの歴史と演奏の科学について：文献研究及び生理・脳科学的研究」 平成21年度 谷志穂里「歌唱脳への伴奏の影響：fMRI研究」 平成22年度 中島智恵子「旋律歌唱に関わる脳機構のfMRI研究：旋律・音階・単音課題の比較から」 平成23年度 植村真帆「幼児・児童の音高弁別に関する調査」 竹内望「成人の音高弁別：音楽経験者と非音楽経験者の比較」		
9. 栄養科学研究所（旧・武庫川女子大学高齢者栄養科学研究センター）、西宮市社会福祉協議会、西宮市包括支援センター主催「音楽で楽しく健康のつどい」の実施	2008年3月～現在	地域高齢者を対象として、音楽療法コース学生有志が月2回の音楽活動を実施している。 また地域の要請に応じて、2010年甲子園浜分区、2009年小松分区、2008年高須分区の「敬老のつどい」、および2010年甲子園南分区「新春のつどい」において、「音楽で楽しく健康のつどい」と称して、音楽活動を実施した。 なお、公開シンポジウムでは、学生の立案、指導によって、地域高齢者が楽器演奏、合唱等、活動の成果を披露する機会を提供した。 2013年度以降は、栄養科学研究所における実習として同様の活動を継続している。		
10. 神戸市シルバーカレッジ 講師	2008年2月～現在	総合芸術コース音楽文化専攻クラスを対象に、「音楽療法：様々な対象者と方法」「音楽と健康」と題して毎年、2講義を担当。		
11. ひょうごヒューマンケアカレッジ音楽療法講座 講師	2008年～現在	専門講座（実技分野）の講師として、2008年度は「集団：歌唱・合唱の導入」の授業を担当。2009年度から2015年度まで「療法的伴奏の導入」、同講座に加えて、2012年度より同じく専門講座である「様々な音楽の活用」ならびに基礎講座「音楽の理解・健康と音楽」の講師を担当している。		
12. ロータークラブ芦屋川 卓話講師	2006年3月27日	「音楽療法：米国におけるホスピスの音楽療法」をテーマとして、芦屋川ロータリークラブにおいて卓話を担当。		
13. 市民研修 講師	2005年3月14日	NPO法人吹田市音楽療法推進室おながく・さーくる・コスモスの市民研修講座において、アメリカの音楽療法に関する講義を担当。		
4 その他				
1. 武庫川学院 臨床心理センター（仮称）	2008年1月～2011年	検討プロジェクトチームメンバーとして参画し、音楽療法研究室の開設準備を行った。		
2. 武庫川女子大学高齢者栄養科学研究センターおよび栄養科学研究所	2006年4月～現在	2006年より地域生き甲斐ネットワーク部門研究員として、2013年より高齢者栄養科学部門研究員として参画		
3. オープンキャンパス	～現在	オープンキャンパス開催時には、応用音楽学科の紹介の一貫である音楽療法セッションを担当している。		
研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2 学位論文				
1. 音楽療法におけるICT活用に関する実践的研究	単	2017年3月24日	東北大学	音楽療法におけるICT活用について新しいアプローチとしての可能性を考察するために、(1)高齢者、(2)障害児、(3)身体障害者と、幅広い音楽療法の対象者に対してバリアフリー楽器Cymisを適用して実践的研究を行い、その有効性および有用性を明らかにすることにより、ICTを活用した新たな音楽療法の手法を構築した。（教育情報学博士）（東北大学総長賞受賞）
3 学術論文				
1. Meaning Construction by Musica	共	2017年7月	Music Therapy Today,	Matsumoto, K., Takehara, N., Ichinose, T., Igar

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
1 Narrative : Group Therapy Approach for Juvenile Criminals (査読付)			Summer, 2017, Vol.13, No.1, pp.446-447	i, U., 行刑施設における受刑者への音楽療法として、「大切な音楽」の語りを導入し、計量テキスト分析と意味論的分析を通じて臨床的变化を検討した。
2. Novel Musical Instrument for Severely Disabled and Healthy Elderly People to Play (査読付)	共	2017年7月	Music Therapy Today, Summer, Vol.13, No.1, pp.308-309	Akazawa, K., Horai, M., Masuko, T., <u>Ichinose, T.</u> , Matsumoto, K., Takehara, N., Okuno, R. バリアフリー電子楽器 Cyber Musical Instrument with Score (Cymis)の概要および諸施設における音楽療法への適用について報告した。
3. Physiological and Cognitive Investigation of Playing Instruments that Serves Effective Cognitive Stimulus (査読付)	共	2017年7月	Music Therapy Today, Summer, Vol.13, No.1, pp.535-536	Takehara, N., Aoki, T., Higuchi, T., Nakayama, M., Yoshizato, T., Matsumoto, K., <u>Ichinose, T.</u> , Okuno, R., Akazawa, K. 楽器初心者と音楽専攻者が、決められたテンポにより、音あり・音なし条件でタッチパネルをポインティングする方法でバリアフリー電子楽器Cymisの演奏を行った。Cymis演奏は、被験者の回答と脳波計測により認知的な刺激になっていることが示された。
4. Electronic Musical Instruments to Help Beginners Play Music Ensembles and Discover Errors (査読付)	共	2017年7月	Music Therapy Today, Summer, Vol.13, No.1, pp.312-313	Ando, Y., Aoki, T., Takehara, N., Wada, M., <u>Ichinose, T.</u> , Yoshizato, T., Matsumoto, K., Okuno, R., Akazawa, K. 音楽初心者のためにバリアフリー楽器Cymisによる合奏システム、ならびに正しいテンポの演奏との差(ずれ)を測定できるソフトウェア・プログラムを開発し、システム適用の可能性を検討した。
5. Time-series Analysis of Mood Changes by Group Singing: Assuming Music Therapy (査読付)	共	2017年7月	Music Therapy Today, Summer, Vol.13, No.1, pp.306-307	Akagi, F., Kawase, S., Takehara, N., <u>Ichinose, T.</u> , Masuko, T. 本研究では、集団歌唱が気分及び影響について検証した。音楽療法場面を模した集団歌唱を実施し、質問紙とビデオによるフィードバックにより、歌唱中の心理状態を時系列的に検討した。その結果、集団歌唱による気分や一体感の変化が、歌唱中の一体感ならびにフロー状態の時系列的な変化によりもたらされていることが示唆された。
6. Novel Electronic Musical Instrument with Pre-Programmed Score for the Disabled to Enjoy Playing Music (査読付)	共	2017年	Advanced Biomedical Engineering 6: 1-7, 2017.	Akazawa, K., <u>Ichinose, T.</u> , Matsumoto, K., Ichise, M., Masuko, T., Okuno, R. We have developed a novel electronic musical instrument with a pre-programmed score, called "Cymis," to help the disabled enjoy playing musical pieces. The purpose of the study was to demonstrate that Cymis is useful and effective for helping the severely disabled maintain or improve their quality of life. First, the accessibility of Cymis was revealed by the fact that 34 clients (63%) played Cymis for an average of 5.6 years. Second, each clients' progress in performance, which possibly reflects improvements of upper-limb motor control function, was examined for the longest duration of over 7 years. Among 31 clients, 13 (42%) showed progress, 17 (55%) showed no change (5 of whom showed progress initially but then regressed to their original status), and 1 (3%) revealed deterioration in condition. Third, psychological effects were measured using an original Face Scale before and after playing Cymis, for a total of 395 performances by 38 clients. Clients became happier in 208 performances (53%), showed no changes in 139 (35%), and became sadder in 48 (12%). Finally, with respect to their care plans, 19 of 52 clients (37%) selected Cymis in 2015, and this number itself implies the importance of Cymis. In conclusion, Cymis was useful, effective, and attractive to the disabled; it permitted them to enjoy playing music that might not otherwise be possible, and some evidence of therapeutic effect was found.
7. 音楽療法実習生の振り返りにおける記述的分析 ～経験による「学び」の変化に着目して～ (査読付)	共	2017年(受理済)	栄養科学研究, 武庫川女子大学栄養科学研究所	竹原直美・一ノ瀬智子・松本佳久子・長谷川裕紀・青木智美, 吉里瞳子 地域高齢者を対象とした音楽療法の実習生による振り返りにおける記述の計量テキスト分析を行い、経験による学びの変化を捉えることを試みた。その結果、学年ごとに用いる言葉の特徴、会話、観察視点の継時的変化を概観するに至った。
8. A Novel System for the Elderly to Learn Playing Electronic Musical Instrument in Ensemble (査読付)	共	2017年受理済	Culture and Computing 2017	Takehara, N., <u>Ichinose, T.</u> , Matsumoto, K., Okuno, R., Watabe, S., Sato, K., Masuko, T., Akazawa, K. 高齢者でも簡単に演奏できる合奏システムを導入して実践的研究を行い、その有用性と認知症予防における展望を示した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
9. Development of a System Combining a New Musical Instrument and Kinect: Application to Music Therapy for Children with Autism Spectrum Disorders (査読付)	共	2016年	International Journal of Technology and Inclusive Education, Special Issue Volume 3, Issue 1, 2016, pp. 938-947	Ichinose, T., Takehara, N., Matsumoto, K., Aoki, T., Yoshizato., Okuno, R., Watabe, S., Sato, K., Masuko, T., Akazawa, K. This study describes a novel system that links an electronic instrument called Cyber Musical Instrument with Score (Cymis) and a game device called Kinect to provide music therapy for children with autism spectrum disorders (ASD). The system was developed to facilitate independent and active participation of children with ASD in music activities and teach them to integrate visual and audio sensory, motor, and physical awareness. The system combining Cymis and Kinect has been applied to both typically developing children and those with ASD, demonstrating that it can be used appropriately by either group. Preliminary studies indicate that the opportunity to “play” a familiar song by making desired movements can motivate children with ASD or similar cognitive symptoms to improve on-task behavior and collaborate effectively with a partner while the accompanying video images can be either motivating or distracting. The data obtained from these trials can be used for further empirical research and practical application of the system in music therapy for children with ASD.
10. 特別支援学級の音楽科授業における音楽療法的視点—教員へのアンケートとインタビュー調査による考察— (査読無)	共	2014年3月	発達心理臨床研究, Vol. 20, pp. 89 - 99. 兵庫教育大学学校教育学部附属発達心理臨床研究センター	小宮美咲起・一ノ瀬智子・石倉健二 特別支援学級における音楽科授業に関して、教員にアンケートならびにインタビュー調査を行うことにより現状を調査することにより、学校教育における音楽療法の可能性と課題について検討した。
11. 音楽療法におけるテクノロジーの活用—2000年以降の文献レビューを中心に— (査読付)	共	2014年3月	音楽教育実践ジャーナル, Vol. 11, No-2, pp. 60-65. 日本音楽教育学会	一ノ瀬智子・松本佳久子・竹原直美・渡部信一 音楽療法の領域におけるテクノロジー活用の状況、テクノロジー活用に対する音楽療法士の意識、ならびに養成教育におけるテクノロジー活用の観点から、音楽療法の実践と教育におけるテクノロジー活用に関する文献レビューの結果を報告した。
12. 重度障がい児の音楽療法における前言語的な表現・コミュニケーションの評価・分析に関する基礎研究 (査読無)	共	2014年9月5日	日本音響学会, 2014年秋季研究発表会講演論文集CD-ROM, pp. 515-516	竹原直美・一ノ瀬智子・松本佳久子・青木智美・吉里瞳子・矢野環 重度障がい児の音楽療法場面の音声表現と非言語・前言語コミュニケーション関わる複数の評価同士の時間関係を可視化するために“相互相関分析”を用いた結果を発表した。分析事例では、前言語表現と音声表現が同時に出現し、音楽・身体表現と音声表現の間に長いタイムラグが存在することが示された。
13. Important clinical information in music therapy (査読付)	共	2014年7月	Music Therapy Today, Summer 2014, Vol. 10, No. 1, pp. 372-373	Takehara, N., Yano, T., Masuko, T., Ichinose, T., Matsumoto, K., Aoki, T., Yokoya, M. 日本の音楽療法の報告書に用いられる言葉の共起関係を可視化した“ネットワーク分析”の結果に基づき、音楽療法分野における新たな分類・評価法について考察した。分析結果によると音楽に関する言葉が間主観性・自己・他者間の表現・コミュニケーションに関わる言葉と関連することが示唆された。
14. 障がい児を対象としたコミュニケーション支援・評価システム構築に関する基礎研究 (査読無)	共	2014年3月	日本音響学会, 2013年春季研究発表会講演論文集CD-ROM, pp. 1485-1486	竹原直美・一ノ瀬智子・松本佳久子・青木智美・吉里瞳子 長時間の音楽療法場面の音声映像に、音楽的発達と言語的発達、臨床関係(遊びの関係)や表現・コミュニケーション行動に関わる重要な情報を総合的に記録・評価・分析するための基礎研究の事例について発表した。
15. Promoting elderly well-being through group music activities: psychological and physiological evaluation. (査読付)	共	2011年7月	Music Therapy Today, Summer 2011, Vol. 9, No. 1, pp. 104-105. World Federation of Music Therapy	Ichinose, T. et al. The Research Center for Elderly Nutrition and Development A Japanese and public social welfare organization co-created a program providing group music activities, as directed by music therapy students, to non-institutionalized elderly people every two weeks to improve health. This study's aim is to evaluate participants in perspective of promoting overall well-being.
16. 身体揺れ計測を用いた音楽療法効果の評価への試み (査読付)	共	2008年1月	日本感性工学会, 日本感性工学会論文集, 第8巻2号, pp. 355-360.	太田健一・一ノ瀬智子・太田沙紀子 簡易的な身体揺れ計測法を提案し、指尖脈波の計測結果とともに、音楽療法の評価法として有効であることを示した。なお、実験の計画作成や実施、データ分析、グラフ作成等を分担したが、論文の章や節単位での執筆分担はしていないため、担当部分の抽出は困難である。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
17. 摂食障害と音楽療法：既存研究のレビュー（査読付）	単	2006年12月	日本音楽療法学会近畿支部	摂食障害患者への音楽療法の適用について概観するために欧米と日本において出版されている摂食障害と音楽療法に関する既存研究のレビューを行った。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. A Novel System for Teaching Music to the Elderly to Prevent Dementia	共	2016年9月17日	生体医工学会シンポジウム2016	一ノ瀬智子・竹原直美・奥野竜平・松本佳久子・青木智美・吉里瞳子・佐藤克美・渡部信一・益子務・赤澤堅造 高齢者でも簡単に演奏できる合奏システムを導入して実践的研究を行い、その有用性と認知症予防における展望を示した。
2. 子どもの発達支援における音楽療法の評価の検討～3年間の報告と実施された音楽活動の分類の試みから～	共	2016年9月17日	第16回日本音楽療法学会学術大会	竹原直美・吉里瞳子・青木智美・諸岡由依・一ノ瀬智子・松本佳久子 子どもの発達支援における音楽療法に用いられる活動の κατηγοリーをマインドマップおよびKJ法により分類し、従来の評価視点と比較した。
3. 認知症予防を目的とした楽器演奏の基礎的検討～知的機能刺激の認知科学的計測法～	共	2015年9月13日	第15回日本音楽療法学会学術大会	赤澤堅造・益子務・一ノ瀬智子・松本佳久子・竹原直美・青木智美 電子楽器サイミスを認知症予防のための活動の一環として適用することを目的として、サイミス演奏による知的機能刺激の評価および脳波測定による基礎的研究を行った。
4. 重度心身障害者のための音楽療法評価手法の構築に向けて～事例による予備的考察～	共	2015年9月12日	第15回日本音楽療法学会学術大会	林栄里菜・一ノ瀬智子・竹原直美・益子務 重度心身障害者への音楽療法に対して、生理指標、心理指標、行動分析等を用いて多面的に評価を行い、その有用性について考察した。
5. 発達障害音楽療法のためのKinectを用いた電子福祉楽器演奏デバイスの構築	共	2015年3月11日	2015年電子情報通信学会総合学会	衣川琢磨・奥野竜平・一ノ瀬智子・松本佳久子・竹原直美・赤澤堅造 発達障害児のための音楽療法への適用を目指した、バリアフリー楽器サイミスとゲームデバイスであるKinectを組み合わせた楽器演奏のためシステム構築に関して報告した。
6. Applying a Novel Electronic Musical Instrument and Kinect in Music Therapy for Children with Autism Spectrum Disorders	共	2015年10月20日	World Congress on Education (WCE-2015)	Ichinose, T., Takehara, N., Matsumoto, K., Aoki, T., Yoshizato, Okuno, R., Watabe, S., Sato, K., Masuko, T., Akazawa, K. The present report shows the application of a novel system utilizing an electronic musical instrument Cyber musical instrument with score (Cyber musical instrument) and a game device called "Kinect" for music therapy for children with autism spectrum disorders (ASD). Best Paper Award受賞
7. 音楽と映像の相乗効果が気分と印象に与える影響	共	2014年9月21日	第14回日本音楽療法学会学術大会	松野純男・向畑美菜・竹原直美・松本佳久子・一ノ瀬智子・長谷川裕紀 音楽と映像の時間のずれによるストレス等の気分ならびに印象の変化について、アンケートと唾液中生体指標の変化を多変量的に解析し、その定量的な変化を検討した。
8. 電子楽器サイミス演奏時の脳波Fmθの計測～認知症予防のための脳活性化の楽器演奏を目指して～	共	2014年9月21日	第14回日本音楽療法学会	赤澤堅造・一ノ瀬智子・竹原直美 プログラム化した楽譜を内蔵し、読譜が困難な人が容易に演奏できる電子楽器サイミス演奏時における脳波Fmθ発現の可能性、ならびに楽器演奏による認知症予防との関連について報告した。
9. ELANを用いた音楽療法の臨床記録・評価の構築・分析に関する基礎研究Ⅰ～重度障がい児の音声表現・コミュニケーション場面に注目した分析事例～	共	2014年9月20日	第14回日本音楽療法学会学術大会	竹原直美・一ノ瀬智子・松本佳久子・青木智美・吉里瞳子 音声映像に注釈をつけることのできるELANを使用した音楽療法の臨床記録・評価・分析手法に関する基礎研究を行った。本研究では、重度障がい児と臨床者間の音楽療法中の表現・やりとり注目した事例を紹介した。
10. A method of music therapy of applying ICT (Information and Communication Technology) for individuals with autism spectrum disorders: A pilot study	共	2014年7月22日	International Society for Music Education, 31st World Conference on Music Education	Ichinose, T., Takehara, N., Matsumoto, K., Okuno, R., Watabe, S., Tsutomu, M., Akazawa, K. This study aimed to develop a novel method of music therapy for individuals with autism spectrum disorders who have difficulty in processing audio and visual information and motor coordination.
11. 言葉のつながりから音楽療法の臨床を理解する—2001年～2010年の児童領域における質的事例報告の	共	2013年9月7日	第13回日本音楽療法学会学術大会	竹原直美・青木智美・横家愛恵・松本佳久子・一ノ瀬智子 児童領域の音楽療法の状況を客観的に理解するた

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
計量分析を通してー				めに、過去の児童領域における音楽療法の報告書に用いられている言葉の計量的分析を行った結果、心理面と機能面の関連、や音楽の用い方や臨床目標などが可視化された。
12. 教育機関と行政との連携による音楽療法活動の取り組みー地域音楽療法の推進を目的とした事業紹介ー	共	2013年9月7日	第13回日本音楽療法学会	長谷川裕紀・一ノ瀬智子・松本佳久子・益子務 武庫川女子大学における地域高齢者の健康支援を目的とした音楽療法活動「音楽で楽しく健康のつどい」について、その活動のモデルを提示し、教育機関の特徴を活かした取り組みと成果について報告した。
13. 音楽療法士養成過程学生卒業者におけるコンピテンシー	単	2013年10月12日	日本音楽教育学会第44回大会	音楽療法士の養成課程において学生が修得すべき能力や態度について、コンピテンシーの概念に基づいて考察した。
14. カラオケ歌唱がストレス指標に及ぼす影響について	共	2012年9月	第12回日本音楽療法学会学術大会	荒井理恵・松野純男・長谷川裕紀・一ノ瀬智子・益子務・松本佳久子 カラオケ歌唱がストレスに及ぼす影響について、唾液アマラーゼやs-IgA、心拍変動による自律神経活動等の生理指標と、不安尺度 (STAI) や気分尺度 (POMS) 等の心理指標を用いて検討した。
15. 音楽療法の報告書に関する計量分析の試みー児童領域の臨床研究に必要な情報を探るー	共	2012年9月	第12回日本音楽療法学会学術大会	竹原直美・青木智美・一ノ瀬智子・松本佳久子・横家愛恵 音楽療法士の観点を計量言語的に明らかにするための基礎研究として、2001～2005年度の日本音楽療法学会学術大会要旨集より、児童領域の事例報告文書の関連用語分析を行い、その結果を報告した。
16. 画像と音楽の相乗効果がもたらす心理的变化について	共	2012年9月	第12回日本音楽療法学会学術大会	松本佳久子・中西めぐ・松野純男・一ノ瀬智子・益子務 画像に異なる音楽を組み合わせることにより、気分や印象、画像から連想される物語にどのような変化がみられるかについて、不安調査 (STAI)、SD法ならびにインタビューによって検討した。
17. 緊急地震速報音が及ぼす生理的・心理的影響について	共	2012年9月	第12回日本音楽療法学会学術大会	小山紗由美・松野純男・松本佳久子・益子務・一ノ瀬智子 緊急地震の速報音によるストレスを、アマラーゼやs-IgA、酸素飽和度等の生理指標、ならびにSTAI等の心理指標を用いて検証した。
18. 地域高齢者を対象とした集団音楽活動における身体計測指標の経時的变化	共	2012年9月	第12回日本音楽療法学会学術大会	長谷川裕紀・井上貴絵・西川詩乃・松島由依・見本侑里恵・一ノ瀬智子・松本佳久子・益子務 地域高齢者を対象とした定期的な集団音楽活動の健康面への影響を検討するため、身体計測結果 (身長、体重、BMI、体脂肪率、骨格筋率、血圧、肺活量等) により評価を行った。
19. 音楽療法の質的事例報告に関する計量分析の試み：歌唱とこころ・からだ・社会に着目して	共	2011年09月	第11回日本音楽療法学会学術大会	竹原直美・一ノ瀬智子・松本佳久子 音楽療法士の観点を計量言語的に明らかにするための基礎研究として、2008～2010年度の日本音楽療法学会学術大会要旨集より、質的な観点から記述された事例報告を、特に「歌唱」に注目して関連用語分析を行い、その結果を報告した。
20. 電子鍵盤楽器の音が子どもの聴覚に与える影響の研究	共	2011年09月	第11回日本音楽療法学会学術大会	益子務・大前哲彦・一橋和義・赤澤聖造・一ノ瀬智子・高須裕美 ピアノ教師へのアンケートを通して、電子鍵盤楽器を使用するピアノ受講生のピアノの音への反応、行動の特色、及び電子鍵盤楽器の音響特性を調査した。電子楽器使用者のレッスン中の行動に、着座が困難、視線が合わない等の傾向がみられたが、原因を音響に帰するには対象数不足であり、同課題の検証を継続する予定である。
21. 長期的な集団音楽活動の参加による身体計測指標および内分泌・免疫学的指標の変化	共	2011年09月	第11回日本音楽療法学会学術大会	長谷川裕紀・澤木見佳・一ノ瀬智子・松本佳久子・益子務 地域高齢者を対象として定期的に集団音楽活動を行い、身長・体重・BMIなどの身体計測指標ならびにコルチゾール濃度、S-IgA等、免疫・内分泌系指標の変化から、長期的な音楽活動の参加による健康への影響について検討した。
22. Promoting elderly well-being through group music activities: Psychological and physiological evaluation	共	2011年07月	The 13th World Congress of Music Therapy	Tomoko Ichinsoe, Hiroki Hasegawa, Kakuko Matsumoto, Nodoka Fukami, Ayaka Shinonaga, Kyoko Watanabe, Mayumi Okabe, Keiko Kitada, Anna Nakano, Maiko Yamada, Tsutomu Masuko The Research Center for Elderly Nutrition and Development, a social welfare council, and a community support center in Japan co-organized a project which promotes elderly health through musical activities. This study aims to evaluate the psychological and physiological effects of the regular long term participating in musical activities.

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
23. A Method of Applying Body Sway as an Index to Evaluate Music Therapy	共	2009年11月	American Music Therapy Association 2009 Conference	一ノ瀬智子・長谷川裕紀・太田沙紀子・太田健一 簡易的な身体揺れ計測法を提案し、指尖脈派の計測結果とともに、音楽療法効果の評価法として有効であることを示した。
24. 地域高齢者を対象とした音楽活動による介入効果～POMSと免疫・内分泌系	共	2009年09月	第9回日本音楽療法学会学術大会	長谷川裕紀・一ノ瀬智子・篠永綾香・深見のどか・渡辺恭子・松本佳久子・益子務 武庫川女子大学高齢者栄養科学研究センターによる地域プロジェクト「音楽で楽しく健康のつどい」参加者を対象として、音楽活動が及ぼす心理的・生理的な効果について検証した。
25. 演奏ミスによる予想外の音楽進行が聴取者に与えるストレス：心電図と内分泌系指標による検証	共	2009年09月	第9回日本音楽療法学会学術大会	松野純男・勝原由夏・長谷川裕紀・高松花絵・一ノ瀬智子・益子務 演奏ミスを含む音楽が、音楽経験者および非経験者に与える影響について、心電図およびホルチゾールやアマラーゼなどのストレス指標を用いて検証した。
26. 安静時心拍数を基準とした音楽テンポと主観評価の関係	共	2009年02月	第41回計測制御学会北海道支部学術講演会	長谷川裕紀、井上沙織、一ノ瀬智子、福本誠、魚住超 安静時の心拍数と、人それぞれが固有に持っている精神テンポを測定し、心拍数を基準として作成した音楽のテンポについて主観評価実験を行い、精神テンポと主観評価の関係を検討した
27. 音楽を心身の健康に役立てる試み	単	2008年02月	武庫川女子大学高齢者栄養科学研究センター平成19年度公開シンポジウム	健常高齢者に対する健康増進・維持のための音楽療法実践例を、音楽療法コース学生の実習内容を基にして紹介した。
28. 身体揺れ計測を用いた音楽療法効果の評価法	共	2007年09月	第7回日本音楽療法学会学術大会	一ノ瀬智子・太田沙紀子・太田健一 音楽療法の効果を客観的に評価する方法として身体動揺を指標とする評価法を試み、軽度認知症高齢者への音楽療法、および健常学生の歌唱による身体動揺の変化を測定、解析した。
29. セッションにおける一教材の意味の検討：自閉症児・ダウン症児への実践例を基にして	共	2000年11月4日	第2回全日本音楽療法連盟学術集会 長良川国際会議場	梅田裕子・一ノ瀬智子 自閉症児とダウン症児への音楽療法セッションにおいて、視覚教材と歌を組み合わせた教材を、個々の対象児の特性に合わせて適用した実践例を報告した。
30. 音楽療法の理論と実践：行動主義的アプローチと人間主義的アプローチを中心に	単	1999年5月15日	日本音楽教育学会近畿地区平成11年度第1回例会 神戸大学	米国における音楽療法の主要なアプローチである行動主義的アプローチと人間主義的アプローチの理論と事例を整理、分析し、各理論を背景とした大学教育のカリキュラムについて検討した。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 音楽学部教職課程履修学生に対するピアノ教育の取り組み—応用音楽学科における実践報告—（査読付）	共	2017年3月	学校教育センター年報2 武庫川女子大学学校教育センター	今城道子・一ノ瀬智子・松本佳久子・岩谷寿美子・松川南海 山本麻代・竹原直美 本学応用音楽学科の全学年在学学生を対象にアンケート調査を行い、音楽教員養成に向けたピアノ実技科目に対する学生のニーズならびに音楽経験や自己学習等の現状や傾向を把握し、学習支援のあり方について検討した。
2. 障がい児を対象とした音楽療法の臨床評価システム構築に関する基礎研究～ELANをも用いた音声・映像記録の評価と分析	共	2014年6月	第26回音楽の科学研究会	竹原直美・増田沙耶香・松本佳久子・一ノ瀬智子・青木智美・吉里瞳子・矢野環 映像音声の蓄積・分析を通じた新たな音楽療法の評価・分析事例を紹介した。
3. プロ野球の応援歌が及ぼす生理的・心理的影響	共	2014年6月	第26回音楽の科学研究会	岩本まみ・松野純男・長谷川裕紀・竹原直美・青木智美・吉里瞳子・松本佳久子・一ノ瀬智子 野球ファン・性別の属性問え応援歌への生理・心理反応の違いについて調査したところ、阪神ファン女性に楽曲間での心理反応の違いがみられた結果を発表した。
4. 音楽療法の報告書に関する計量分析の試み～臨床研究に用いられる言葉の特徴から音楽療法の科学的視点を探る～	共	2013年6月9日	第24回音楽の科学研究会	竹原直美・矢野環・青木智美・横家愛恵・松本佳久子・一ノ瀬智子 音楽療法の実践に関わる人がどのような考え・視点から対象者にアプローチしてきたのかに関して、過去の音楽療法に関わる報告書を計量的に分析することにより、全人的な音楽療法の概念を系統的に把握することを目的とした研究結果を発表した。
5. 編集・翻訳 第10回日本音楽療法学会学術大会 国際シンポジウム資料集「ヨーロッパの音楽療法に学ぶもの」	共	2010年9月	日本音楽療法学会	編集・翻訳担当者：一ノ瀬智子・阿比留睦美・片桐じゅん・益子務 他 第10回日本音楽療法学会学術大会メインイベントである国際シンポジウム「ヨーロッパの音楽療法に学

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
6. 翻訳 第10回日本音楽療法学会学術大会 講習会資料集	共	2010年9月	日本音楽療法学会	ぶもの」資料集の編集と翻訳を担当。主に編集を担当した他、6名のシンポジウム登壇者プロフィール (pp. 2-4)を和訳・英訳した。 翻訳担当者：一ノ瀬智子・片桐じゅん・松原敬之 担当部分：Jos De Backer, 即興演奏から象徴化へ：精神病患者に対する音楽療法, pp. 117-128.
7. 高齢者を対象とした集団音楽活動における心理・生理学的評価	共	2010年3月22日	第15回音楽の科学研究会	ヨーロッパ音楽療法協会会長、Jos De Backer博士による精神病患者への音楽療法に関する資料、パワーポイントのスライド計34枚を和訳した。 長谷川裕紀・岡部真由美・仲野杏奈・一ノ瀬智子・松本佳久子・益子務 高齢者の健康増進という観点に立ち、集団音楽活動の効果を心理・生理学的側面から評価した。
8. 自主シンポジウム話題提供：音楽療法技能I・II・IIIのシラバス一覧：養成校アンケート結果の報告	共	2009年9月13日	第9回日本音楽療法学会学術大会	大前哲彦・一ノ瀬智子・糟谷由香 日本音楽療法学会によるカリキュラムガイドラインの「音楽療法技能I」「音楽療法技能III」に該当する科目のシラバス分析を担当して結果を報告し、全国の音楽療法士養成校へのアンケート結果を基にして考察した。
9. 音楽療法における新たなストレス指標としてのレプチン受容体：生理学的意義とその問題点	共	2009年11月29日	第17回大阪大学保健センター健康科学フォーラム「音楽とウェルネスの学際的融合」	松野純男・高松花絵・一ノ瀬智子・長谷川裕紀・松本佳久子・益子務 音楽療法の効果の判定のために用いられるストレス指標として、食欲関連ホルモンとして知られるレプチンの細胞膜結合受容体を採り上げ、その有用性と問題点について報告した。
10. 自主シンポジウム話題提供：音楽療法士教育の課題：アンケート調査結果を踏まえて音楽療法士の課題を考える	共	2008年8月	第8回日本音楽療法学会学術大会	大前哲彦・一ノ瀬智子・糟谷由香 本学音楽療法コース学生へのアンケート調査結果と教育実践についての報告、ならびに全国の音楽療法士養成機関に対するアンケート調査結果に基づいて、養成校が抱える課題について考察した。
6. 研究費の取得状況				
1. ICT (情報通信技術) を活用した障害児のための音楽療法	共	2017年4月～	基盤研究 (C) (代表：一ノ瀬智子)	本研究は、発達障害児および身体障害児のために、他者とのコミュニケーションおよび身体機能の向上の促進を目的とした音楽療法のためのプログラムを開発することを目的とする。ICT (Information Communication Technology) を活用した障害児のための音楽療法である。申請者が開発したバリアフリー電子楽器Cymis (Cyber Musical Instrumentwith Score)、ならびに動作により操作するゲームデバイスKinect (マイクロソフト社) を適用したプログラムをさらに教育、臨床現場へ応用しやすいように改良し、対象を身体障害児まで拡大して身体の動きを記録、分析するプログラムにまで発展させる。
2. 軽度認知障害の認知リハビリテーションのための電子楽器演奏システムの開発	共	2017年4月～	基盤研究C (研究代表者：奥野竜平)	本申請では認知症予防を目指した新しい電子楽器演奏システムの開発を目的とする。楽器演奏による認知症予防のエビデンスをもとに、演奏経験のほとんどない高齢者に楽器演奏の機会を提供できるようにするものである。具体的には、申請者が開発してきた脳性麻痺などの運動障害者に適用しているバリアフリー電子楽器をもとに、軽度認知障害を持つ高齢者 (MCI 高齢者) でも合奏できるように改良した電子楽器システムを開発する。
3. 発達障害におけるコミュニケーションの文脈に視点をのこした音楽療法プログラムの構造化	共	2015年4月～	基盤研究 (C) (代表：松本佳久子)	本研究は、発達障害における社会性の障害に着目し、前言語的 (Pre-Verbal) から言語的 (Verbal) 段階に至るコミュニケーションを促進する音楽療法プログラムの構築を目指す。そのために、臨床において、意味の生成と変容をもたらす時間的・空間的コンテキストに着目し、コミュニケーションにおける質的变化の可視化を目指す。具体的には、沈黙や「間 (ま)」、前言語的感情表出行動をコード化し、データベースを作成し、計量テキスト分析ソフトKHcoderによる共起ネットワーク分析により空間的文脈を示す。また、ELANによる行動分析を通じて感情表出行動の時間的コンテキストを示す。これらの計量的分析と関与観察によるナラティブ分析とを統合する質的・定量的評価方法を検討する。
4. 発達障害児への音楽療法における ICT (情報通信技術) を活用した楽曲演奏	共	2014年4月～2016年3月	基盤研究 (C) (代表：一ノ瀬智子)	本研究は、多くの発達障害児が困難を抱える物事の因果関係や順序性の理解を促進することを目的とした音楽療法のためのプログラム開発を目的とする。そのために視覚、聴覚、身体意識を統合するための楽曲演奏の方法として、バリアフリー電子楽器Cymis (Cyber Musical Instrumentwith Score)、ならびに動作により操作するゲームデバイスKinect (マイクロソフト社) を適用する。そのことにより、ICT (情報通信技術) を活用し、楽器演奏を介した世界初

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
				の発達障害児への音楽療法プロトコルを構築する。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2017年5月～現在	第16回日本音楽療法学会近畿支部学術大会 事務局長
2. 2013年4月～現在	日本音楽療法学会近畿支部 教育研修委員
3. 2013年4月～現在	日本音楽療法学会 (補) 受験資格基準検討委員
4. 2013年4月～2016年3月	日本音楽療法学会近畿支部 メディア委員
5. 2013年4月～現在	(公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構 兵庫県こころのケアセンター 兵庫県音楽療法士審査委員
6. 2013年4月～現在	日本音楽療法学会近畿支部 支部役員
7. 2010年9月	第10回日本音楽療法学会学術大会 企画委員会・副委員長 国際シンポジウム「ヨーロッパの音楽療法に学ぶもの」の企画、準備、海外招聘講師の接待等に関連する諸業務を担当。
8. 2010年9月	第10回日本音楽療法学会学術大会 講習会司会
9. 2010年4月～2013年3月	日本音楽療法学会近畿支部事務局 会計
10. 2009年3月	第8回日本音楽療法学会近畿支部学術大会 研究発表座長
11. 2008年3月	第7回日本音楽療法学会近畿支部学術大会 実行委員長兼事務局長
12. 現在に至る	日本発達心理学会 会員
13. 現在に至る	日本芸術療法学会 会員
14. 現在に至る	American Music Therapy Association 会員
15. 現在に至る	日本音楽療法学会 会員
16. 現在に至る	日本音楽教育学会 会員
17. 現在に至る	日本特殊教育学会 会員